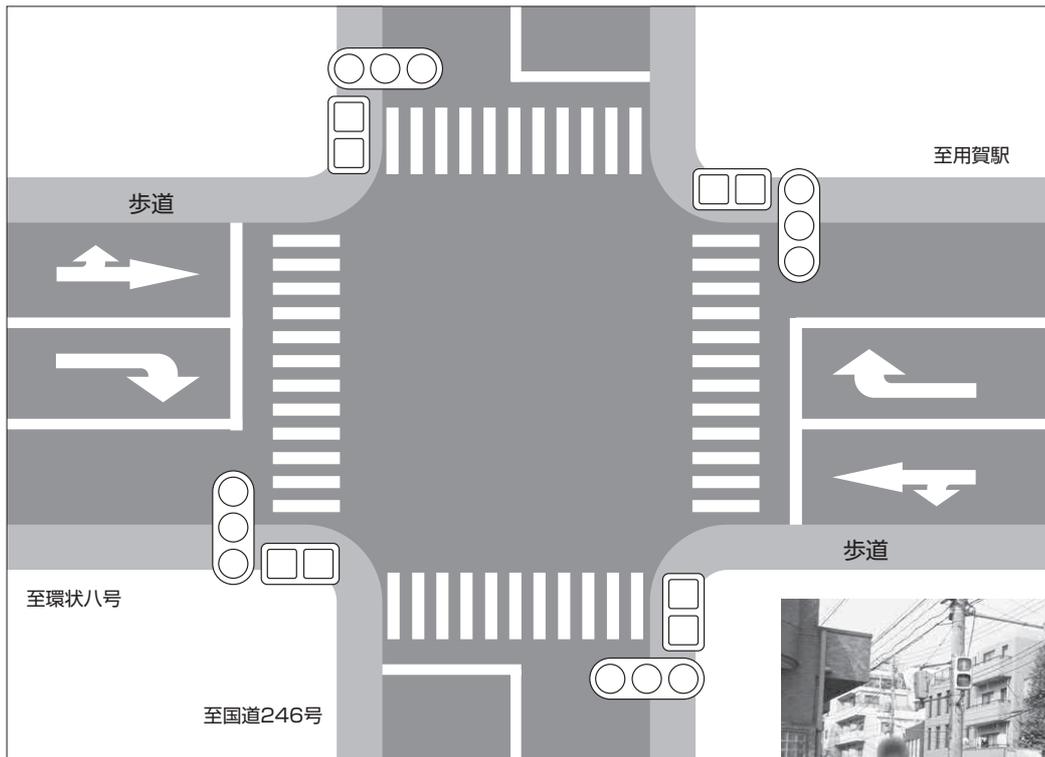


Q1

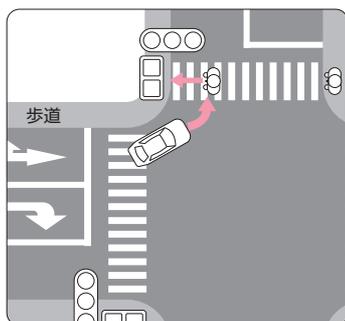
歩行者843人中、歩行者用信号機が赤の時に横断したのは何人でしょうか？



信号無視をする自転車



- 観察場所 / 東京都世田谷区玉川台2丁目付近
- 観察日 / 2007年7月12日 (木曜日)
- 観察時間 / 7:30~8:30



Q2

信号無視の歩行者がクルマの通行を妨げる様子を目撃！
事故を防ぐには、どうすればよいのでしょうか？

朝夕の通勤時間帯には交通事故が多い

平日の朝夕は、多くの人々が通勤や通学のために移動している。この時間帯には、交通事故も多く、平成18年中に発生した交通事故886,864件中、最も多い134,876件が午後4時から6時の間に起きている。次いで、午前8時から10時の126,909件となっている。

((財)交通事故総合分析センター資料)

こんな事故が起きています

道路交通法

信号機の信号等に従う義務 (法7条抜粋)

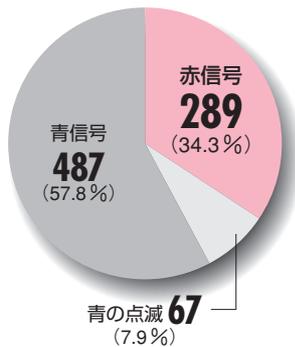
道路を通行する歩行者または車両等は、信号機の表示する信号または警察官等の手信号等に従わなければならない。



……実際に観察しました

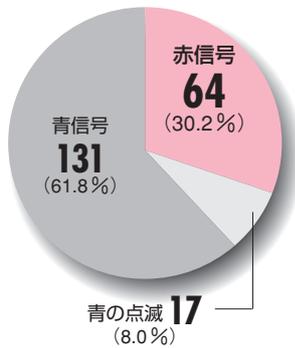
Q1 の解答 289人 (34.3%)

●歩行者用信号機のある横断歩道での歩行者の横断状況 (843人中)



	青信号	青の点滅	赤信号	小計
子ども	24 (96.0%)	0	1 (4.0%)	25
中学生 高校生	20 (69.0%)	1 (3.4%)	8 (27.6%)	29
大人	430 (55.6%)	66 (8.5%)	277 (35.8%)	773
高齢者	13 (81.2%)	0	3 (13.8%)	16
小計	487 (57.8%)	67 (7.9%)	289 (34.3%)	843

●歩行者用信号機のある横断歩道での自転車の横断状況 (212台中)



	青信号	青の点滅	赤信号	小計
子ども	0	0	0	0
中学生 高校生	35 (62.5%)	3 (5.4%)	18 (32.1%)	56
大人	95 (61.3%)	14 (9.0%)	46 (29.7%)	155
高齢者	1 (100%)	0	0	1
小計	131 (61.8%)	17 (8.0%)	64 (30.2%)	212

※子ども (12歳以下)、中学生・高校生 (13~18歳)、成人 (19~64歳)、高齢者 (65歳以上) の判断は観察者の見解による

観察の結果、1時間にこの交差点を通過した歩行者は843人、自転車が212台。

内訳は、歩行者では、横断を開始した時に「青信号」だったのは487人、「青の点滅」が67人、「赤信号」が289人だった。自転車では、横断開始時に「青信号」が131台、「青の点滅」が17台、「赤信号」が64台だった。

多くの歩行者が、「青信号」ならそのまま進み、「青の点滅」の場合も停まらず、「赤信号」の場合は一瞬立ち止まって左右の状況を確認してクルマの列が途切れると同時に信号を無視して横断していた。「赤信号」でしばらく立ち止まった人も、誰かが信号を無視して横断すると、つられて横断するケースも多かった。10人以上の集団が信号無視をしている光景さえ見かけた。



前の人が信号無視をすると、つられて横断する人も多かった

Q2 の解答 歩行者は信号を守る

【解説】信号の変わり目には、ドライバーも他のクルマの通行の妨げにならないようにと、急いで右左折をしようとする。そのため、歩行者用信号が赤になってから歩行者が横断すると、右左折するクルマと接触してしまう危険性もある。

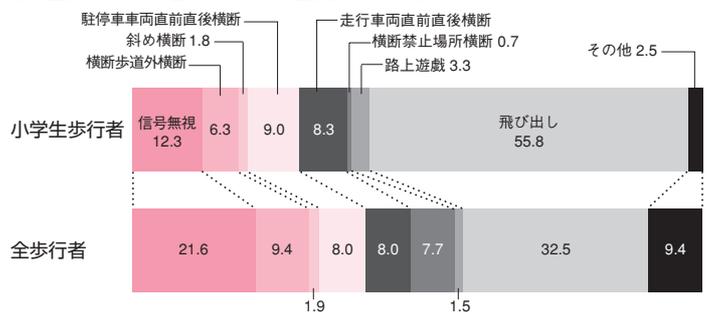
ここがポイント

- 歩行者は無理な横断はしない
- ドライバーはあせらずに左右の安全確認をしっかりと行う

ワンポイント DATA

大人の方が小学生より信号無視の割合が高い

小学生歩行者 (第1当事者) の法令違反別 事故件数 (構成率)



平成17年中の小学生歩行者の交通事故を法令違反別に見ると、飛び出しが55.8%を占めている。しかし、全歩行者と比べて、信号無視の構成率 (小学生歩行者12.3%、全歩行者21.6%) は低くなっている。

(財) 交通事故総合分析センター資料